



# ITC 中古旅客機をリース タイの新興航空会社に

アイ・ティー・シー・リーシング(ITC、東京都中央区、中山智夫社長、03・3555・3621)はイタリアのジェットエクスパートと共にオペレーティングリースする機体(ペイントは合

成) 同で、タイの新興航空会社の新興航空会社のスカイ・スター航空向けに中古旅客機2機のオペレーティングリース(3面に「ことば」)を組成した。機体のメンテナンスリザーブ条件の厳格化などでリスクを回避するスキームをITCが組み立てた。ITCは月

額6万ドルの手数料を受け取る。スカイ・スターは7月上旬に航空事業の免許を取得したばかり。成立したリース案件は82年製の40人乗りのボーイング767-222型機2機。機体総額は2機で2800万ドルで、購入資金

はジェットエクスパートが用意した。新興航空会社向けリースは経営上のリスクを伴うが、ITCは機体を常によい条件に保つための預託金であるメンテナンス

スリザーブ条件を厳格にし、機体をいつでも高値で売却できるようにすることを中心に、リスクを回避する。ITCでは機体引き渡し後、毎月技術者を派遣して機体の状態をチェックしていく。5年契約でリース料は1機当たり18万ドル。2機は9月下旬から10月初旬に引き渡す。スカイ・スターはタイと日本、韓国間に同機を就航させる。

### オペレーティングリース

リース期間満了時点の物件価値(残価)は中古価値をあらかじめ見込んで行うリースのこと。物件代金から残価を差し引いた金額を基準にリース料を設定するので、リース料総額を低く抑えられる利点がある。中古市場が発達し、将来の残価が比較的容易に予想できる物件が対象。

具体的には自動車や航空機、建機、工作機

械、半導体製造設備

など汎用性のあ

る物件が代表的。

